

地域で児童生徒を育む「対話型」授業研究会

東みよし町加茂地区における取組

12月に実施された「学校力向上コラボレーション事業」での授業研究会を紹介します!

加茂地区（三加茂中学校、加茂小学校、三庄小学校）において、三加茂中学校とそれぞれの小学校とは車で約5分程の距離にあり、互に行き来がしやすい環境にある。同地区では、コロナ禍以前には交流活動などを通じた連携が活発に行われていたが、コロナ禍以降連携が希薄となっていた。令和6年度からの「学校力向上コラボレーション事業（2年間）」を活用して、地域の小学校との連携の復活とともに、中学校だけではなく地域全体が同一歩調で学校力を向上させていきたいという願いを持って授業研究会を実施してきた。

研究授業 私のキャリアプランを創造しよう(2年生)

授業では「なりたい大人像を描き、実現に向けて今実践できることを考える」活動を行った。生徒は、アンケート結果や職業体験学習を振り返り、シンキングツールを活用して考えを深めていた。



研究授業の様子(1)

授業研究会① 本日の授業について(授業者から)

【めあて】を明確にする活動、【振り返り】を丁寧に行う活動を重視した授業を行った。効果的なものとなったかが課題である。



研究授業の様子(2)

授業研究会② グループ協議(20分)

(話し合いの内容)

「研究授業・日頃の実践を振り返り、【めあて】と【振り返り】とが効果的なものとなっているかについて、実践内容を含めて情報共有」を行う。

(話し合いの様子)

- ・各班(9班、各4名)とも小学校と中学校の教員で構成されていた。
- ・発言内容を、発言者以外が自然とホワイトボードに記録していた。
- ・日々の実践の例を具体的に示した情報共有が行われていた。
- ・対話を通して、実践内容や児童生徒の様子について共有していた。

(内容;特徴的であったもの)

- ・小学校の時の様子を伝えながら、小学校からの成長を感じている。
- ・小学校の時はほとんど記述できなかった児童が、自分の考えを記述できるようになっている。
- ・ワークシートに記述することで、1年間での成長を見ることができる。



授業研究会の様子(1)

授業研究会③ グループ協議内容の共有(各2分)

(各班の発表内容;特徴的であったもの)

- ・(研究授業では)生徒が自分事として受け止め考えていた。具体的に話をさせることで目標に到達できる。学びを数値化することで今の自分を振り返ることができていた。
- ・(生徒自らが)以前の自分を超越するための【めあて】を設定させていた。
- ・自分自身で学びの観点を決めることで取組方針を考え、取組の状況を数値化することで意欲的に授業に取り組んでいた。



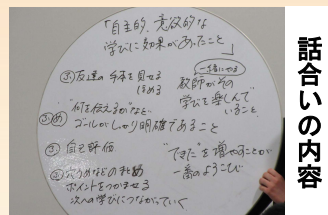
授業研究会の様子(2)

授業研究会④ 授業研究会のまとめ

(指導主事の話;特徴的であった内容)

- ・【振り返り】が次の授業に繋がっていく。
- ・「自主的・意欲的な」子どもの姿とは・・・
- ・学校力向上コラボレーション事業で得たものを各校で展開していただきたい。

★参観者から「ここは1つの学校なのかと思った」という感想があった。



話し合いの内容

<参観させていただいて>

1つの学校であるかのように研究会が自然に行われていることに驚いた。耳を澄ますと、生徒の小学校時の様子を知ることができた、中学校での成長を見ることができた、といった喜びの声が聞こえてきた。今回のテーマ【めあて】と【振り返り】の大切さについても事例を含めて共有されており、地域で児童生徒を育む土壌が醸成されていると感じた。

<今後の予定(校長先生より)>

東みよし町では、小学校6年生が中学校生活を体験する「中学校訪問」を実施しており、教員の交流の場にもなっている。また、令和8年度には、中学校教員の小学校授業参観を計画している。今後も、小中交流を継続し、地域全体で児童生徒を育てていきたいと考えている。